

生存科学研究ニュース

VOL. 10. NO. 5

1995. 9. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

* 第1回「生存科学基礎論」研究会 *
* * * * *

平成7年7月20日(木)午後3時半より研究所会議室において表記研究会が開催された。

生存科学研究所は、これまで、武見太郎先生が生涯をかけてなし遂げられた偉大な業績を追体験しつつ、人間「生存の理法」と人類「生存の秩序」を模索しながら、それぞれの関連分野を中心に、生存科学的研究及び実践を意欲的に進めてきた。この研究会は、これまでの研究成果を総括ないし集約する意味を込めて、「生存の理法」と「生存の秩序」を探究する「生存科学の課題と方法」に関する基礎論を検討するために設置されたもので、基本構想委員会の具体化の一つである。(板垣委員の説明から)

メンバー

(敬称略 アイウエオ順)

青木 清	筑井 甚吉
板垣 與一	津谷喜一郎
江見 康一	土屋健三郎
高瀬 浄	向山 定孝

田村 貞雄 師岡 孝次
客員

中尾 喜久 小平 敦
江橋 節郎 中山 昌作

事務局

小林 芳子

第1回の会合の冒頭において板垣委員が座長に選出され、次いで江見委員から「生存科学への道—環境・人間・経済・文化—」と題した発表があり、その後全員での討議が行われた。



江見委員 (帝京大学経済学部教授)

江見委員の発表の概要は以下のとおり。

明治維新から現在に至る日本の人口と経済活動の動向を分析、日本経済発展の要因と社会・資源・環境の変化、それらに基づく現在日本が抱えている問題を指摘し、その問題解

決の方向を示唆した。

分析された日本経済の、明治維新以降今日に至る歩みの状況を、飛行機の飛行に例えて、滑走路を助走する江戸時代、テイクオフし、成層圏にまで至る明治以降100年の高度成長時代、そして成層圏に入って、水平飛行に移る今後に分け、この状況変化による価値観の転換の必要性が強調された。

即ち、高度成長時代には、産業社会、成長志向、効率優先といった価値観が全面的に受け入れられたが、低成長の時代には自然との共生、家庭重視といった、東洋的価値観の良さを見直し、安定成長、中福祉、適性負担といった新たな政策を取るべきである。

日本経済は、石油ショックに見舞われた70年代に一度、見直しのチャンスがあったが、成長路線上の改革にとどまり、路線転換ができなかったことが、その後の平成バブルと反動による不況を大きなものにした。

現在のような高度エネルギー消費社会が今後も永続的に続くということは理論上あり得ないことであり、何らかの対策を生存科学的発想によって考えていくべきである。

平成7年度第3回理事会

7月14日（金）午後3時半より、平成7年度第3回理事会が開催され、財団の組織運営については、以下の3点を中心にして小平専務理事より説明があった後種々協議が行われ、その協議決定の基盤の上で理事長・副理

事長・専務理事・常務理事の互選、評議員の補充選出、顧問の推薦が協議され、以下の人事が議決された（名簿は別掲）。

組織運営の提案と決定事項に関しては、

- 1.「生存科学基礎論研究会」については、板垣理事の指導で全体の取り纏めのための基礎論を財団理事を中心として研究し、財団のこれまでの研究を、中心課題の「生存」に集約することに取り組むこと、
- 2.従来からの専務理事の基本構想は、理事会・評議員会・顧問団・基金の4つの全部が、個性を持ちながらコーディネートして、武見思想の具現化に取り組むことであったが、この中、1が今回新しく理事会を中心に、再発足するので、あと3つも改めてそれぞれのメンバーを中心に再出発を行うこと、
- 3.金利の異常な低下で極めて厳しい平成7年度事業計画の資金繰りが説明された。
資金繰りについてはその具体策が協議され、会員増加の努力、事業による収入獲得の努力をすると共に、経費削減のために事務所の縮小による事務所費の削減、人件費の削減が提案され承認された。

板垣理事は、生存科学は新しい学問であるので、学際的、限界領域に残された重要な問題を掘り起こして、新しい接近法を研究し、生存研のアイデンティティとなるものを作りたいと抱負を述べた。

なお、この理事会での協議・議決を受けて、8月15日（火）に行われた常務理事打ち合わせ会において、更にその具体策が協議さ

れ、公益法人である財団の資金運用が、法により元金保障付きの（現在年利2%を下回るような）安全確実なところより他は許されていないという苦しい状況を会員に知らせて、再度の緊急寄付募集や会費の値上げも考えるべきであろうという意見も提出された。

[名簿]

理事長・副理事長・専務理事・常務理事

副理事長（理事長代行）	中尾 喜久
副理事長 江見 康一	粕谷 豊
筑井 甚吉	土屋健三郎
専務理事 小平 敦	
常務理事 青木 清	卜部 文麿
鈴木 雪夫	田村 貞雄
津谷喜一郎	中山 昌作
藤野 志朗	師岡 孝次

評議員（補充選出）

内田 貞夫 三共（株）取締役学術部長

顧問

井深 大 ソニー(株)ファウンダー最高相談役
 上野 公夫 中外製薬(株)会長
 近藤 次郎 地球環境産業研究機構副理事長、前日本学術会議会長
 内藤 祐次 エーザイ(株)会長
 永瀬 正己 (財)岡山県腎臓バンク理事長
 H.H.ハイアット 元ハーバード大学教授
 松前 達郎 東海大学総長・理事長
 宮島 龍興 (社)日本教育工学振興会会長、元理化学研究所理事長
 W. レオンチェフ ニューヨーク大学教授

渡辺 格 慶応義塾大学名誉教授、
 (株)ヤクルト本社常任顧問

 *
 *
 *
 *
 *
 *
 *
 *
 *
 *

お知り合いの方を是非会員として
 ご勧誘ください

資源・環境問題はじめ近くはオウム事件まで人類の生存をおびやかすような事態が次々と現実化して、「生存科学」の必要が今日ほど世間に理解され求められる時はないのではないかと考えられます。

当財団は、皆様から基本財産としてお預かりした資産を、預金として運用し、その金利収入を主たる財源として調査研究事業を行っております。しかし乍ら、ここ数年来金利は著しく低下し、高い時から見ると8分の1の水準にまで下がりました。

従いまして、財団設立の目的を達成するために、可能な限り経費の節減に努め、事業活動の充実を図ってきましたが、それでも尚資金が不足し、そのため誠に恐縮ながら昨年は皆様に緊急の特別ご寄付をお願い致しました。その節は色々ご協力・ご配慮に預かり有難うございました。今年も昨年以上に厳しい状況にあります。重ねてのお願いで恐縮でございますが、このような時期でございますので、是非お知り合いの方を会員としてご勧誘いただき、研究所運営の基盤をなす会員を増やし、皆様お一人お一人の力によって着実に調査研究を進めていきたいと考えております。

なにとぞ事情ご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

なお、生存科学研究所案内・同資料編（研究資料集）・学術誌「生存科学」などの資料や
手続用紙の送付など勧誘にご必要な手続きは
ご送付先をお申出くだされば、事務局が致し
ますので、お電話でもお申し付け下さい。

**
**
**
**
**
**

会員寄贈図書

最近、会員の方から、下記図書の寄贈を
受けました。ご関心のある方は事務局にあ
りますので、ご覧下さい。

医療学—倫理と行動— 左奈田幸夫
病院管理研究協会 平成6年7月発行

スイスの住居・集落・街 齊木 崇人
丸善株式会社 平成6年12月発行

世界伝統医学大全 (訳)津谷喜一郎
株式会社平凡社 平成7年2月発行



**
**
**
**
**
**

会員移動

前回お知らせした以降の新入会員は次のとお
りです。(敬称略)

石井 裕正 慶応義塾大学医学部教授
小野 政武 (株)河源社
柏谷 豊 星薬科大学学長
中村 太郎
ハイドルン・ライゼンウエバー

北里研究所東洋医学研究所
長谷川智子 早稲田大学文学部
松田 正己 結核予防会結核研究所国際
研修科長

**
**
**
**
**
**

研究所日報

- 7月13日(木) 編集委員会
- 7月17日(月) 「21世紀の産業活動のあり方」
研究会
- 7月27日(木) 前別府市長中村太郎氏来所
- 8月2日(水) 小平専務他、肝属郡医師会
黒木会長と鹿児島県医師会
鮫島会長を訪問
- 8月8日(火) 小平専務、鹿児島県保健環境
部安達部長を訪問